

愛知県環境評価審査会会議録

1 日時 平成25年5月16日(木) 午後2時から午後3時55分まで

2 場所 愛知県自治センター4階 大会議室

3 議事

- (1) 西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書について
- (2) 北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について
- (3) その他

4 出席者

委員16名、説明のために出席した職員14名、事業者11名

5 傍聴人 5名

6 会議内容

- ・ 議事録の署名について、大東会長が松尾委員と吉久委員を指名した。
- (1) 西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書について
 - ・ 資料1から資料4までについて、事務局から説明があった。
 - ・ 資料5について、井上部会長から報告があった。

<質疑応答>

【吉久委員】 資料5の「7 その他」の(1)で「わかりやすい内容となるよう努めること」とあるが、記載しなければならない内容は決まっており、それをわかりやすくするというのであれば、「わかりやすい記述となるよう努めること」、あるいは名古屋市長の意見のように「わかりやすい図書となるよう努めること」とした方がよいと思う。

【事務局】 御指摘のとおり、「わかりやすい図書となるよう努めること」にしてはどうかと考える。

【大東会長】 このことについて、意見はないか。
(委員から意見等はなし)

【大東会長】 「内容」を「図書」に修正することとする。その他に意見はないか。
(委員から意見等はなし)

【大東会長】 事務局から再度、修正箇所の確認をお願いしたい。

【事務局】 「7 その他」の(1)中「わかりやすい内容」を「わかりやすい図書」に修正させていただきたい。

【大東会長】 事務局から説明のあった箇所の修正を行った上で、審査会の答申としてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

- ・ 資料5の「西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書に関する部会報告」について、事務局から説明のあった箇所の修正を行った上で審査会答申とすることで合意し、別紙1のとおり答申した。

(2) 北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について

- ・ 北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について、別紙2のとおり諮問を受けた。
- ・ 資料6について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

【夏原委員】 事業の必要性が具体的に記載されておらず、17ページに事業を実施しない案についての検討は現実的ではない旨記載されていることが理解できない。今後トウモロコシの輸入量がどのように増えて、現在の港湾機能では対応できないといったことについて、具体的にデータを示していただきたい。

【事業者】 トウモロコシの今後の需給については、世界的な情勢によって変動はあると思うが、今後、大型船による大量輸送がもたらすメリットを企業が追求していくといったことに対応するためにも、「国際バルク戦略」を推進していく必要があると考えている。

こうした中で、現在名古屋港に立地している企業のさらなる拡充を図る上で、現在の臨港地区では場所がないことから、新たな埋立地を造成し、新食糧コンビナート用地として集約、あるいは企業の高質化を目指して、今後の穀物需給に対応した政策をとっていきたい。

【夏原委員】 もちろん十分検討されたこととは思うが、海面埋立て、しかも水深が10メートルもないような浅瀬の埋立てはできる限り避けなければならないと思う。こういったことを犠牲にしているのであるから、口頭ではなく、必要性について言及した資料で説明していただきたい。

【事務局】 次回開催予定の部会において、資料でもって説明させていただく。

【大東会長】 比較的浅いところは水質的に重要な場所であるので、この場所を埋め立てることとした検討の経緯をしっかりと示していただきたいということである。

【成瀬委員】 148ページで、たとえば、大気質は「工事の実施」にしか「○」が印されていないが、供用時の船舶の出入りに伴う大気質や温室効果ガスを予測する必要があるのではないか。また、バラスト水は考えなくてよ

いのか。

【事務局】 公有水面の埋立ての事業では、埋立地の上で行われる上物事業は環境アセスメントの対象ではない。今回の案件で、対象事業に該当する上物事業が実施されるとすれば、それは別の環境アセスメントとなる。

【長谷川委員】 ラムサール条約では、潮が引いたときの水深が6メートルを超えない海域は湿地とされている中で、この場所しかなかったのかとまず感じた。

「西名古屋火力発電所リフレッシュ計画」の準備書の967ページにスナメリの調査結果が示されているが、今回の事業実施区域の周辺で確認されている。今後、名古屋港管理組合においても調査することとなると思う。

また、この場所を埋立てる代わりに、どのような対策をとるのか、どのようにモニタリングを行うのかを明記するなど、フィードバックが必要である。

【事務局】 中部電力株式会社の調査結果、今後実施される名古屋港管理組合による調査の結果を踏まえ、環境保全措置を講ずる必要があるれば、準備書において明らかにされ、この場で審査いただくこととなる。また、環境保全措置に不確実性がある場合などは事後調査が実施されるが、その結果は報告させていただくので、更なる措置が必要かどうか審査いただければと考える。

【大東会長】 4月から施行された配慮書手続を先取りした手順を踏んではいるが、位置の複数案までは検討されていない。位置が決定された後の埋立地の形状の複数案が検討されており、この場所とした背景がわからないということであると思う。

【谷村委員】 「国際バルク戦略」の推進に向けて、管理組合は、どのような構想を描いているのか。将来的には別の場所の埋立ても考えていると思うが、名古屋港全体の構想を聞いておきたい。

【事業者】 名古屋港では、貿易貨物としてコンテナ、完成自動車及びバルク貨物を取り扱っているが、それぞれのバランスがとれている。

バルクについては、資源やエネルギー、食糧の世界的な競争が進んでいる。海上輸送の分野では、一括大量輸送、大型船を使用したスケールメリットが追求されており、船舶の大型化が進展している。

一方、国内では、大型船に対応する港湾施設が不足している、あるいは、企業連携を促す仕組がないといった状況の中、「国際バルク戦略」が進められている。

管理組合としても、バルク貨物については輸入原料として取り扱っており、全国へ配送する国内産業ハブ拠点を形成していきたいという考えから、この戦略を推進している。

港内の埋立計画については、法定計画である港湾計画に埋立予定地を位置付けている。現在、港湾計画の改訂作業を進めており、新しい埋立地についてもこの作業の中で検討しているところである。

【谷村委員】 埋立予定地を示すことはできるのか。

【事業者】 港湾計画図の中で、今後の埋立予定地を示している。

【大東会長】 11ページの上の図でいうと、ポートアイランドの南側、南5区の南側など、白抜きの部分が今後の埋立予定地ということによいか。

【事業者】 御指摘のとおり、白抜きの部分、実際は薄いピンク色の線があるが、ポートアイランドの南側、南5区の南側、金城ふ頭の南側などを埋立予定地として示している。

【山澤委員】 複数案の検討の中で、環境面、社会面及び経済面で比較評価がされ、A案が選択されているが、結論があるのみで、具体的な内容がわからない。環境面の評価結果からみると、B案が選択されるべきと思われるが、社会面及び経済面においては、どの程度A案が優位であったのか。また、流況、あるいは水質で、B案の水路を設けたとしてもあまり変化はないようなことが記載されているが、その変化の程度などが読み取れない。

二点目は、152ページの大気質の手法で、基本的には大気質に影響を与える事業ではないと認識しているが、基準を達成していない地点もある。こうしたことを踏まえると、調査期間が四季ごとに1週間、あるいは1か月間の連続測定と設定されているが、通年でなくてよいのか。それぞれの調査期間の設定理由を説明いただきたい。

【事務局】 次回開催予定の部会において、まとめて説明させていただく。

【田代委員】 減災という意味で非常に重要な高潮防波堤に与える影響が気になる。また、ポートアイランド付近は狭く、浚渫土砂が溜まりやすい地形であるのに対して、更にこの狭窄部を埋立て、大型船が出入りすることで、浚渫土砂が溜まりやすい状況を生み出すことにならないかという、海底面の地形の変動は考えなくてよいのか。

二点目は、浚渫土砂での埋立てを計画しているが、おそらく浚渫土砂をそのまま使うことはできないと思われる。たとえば、セメント改良を加えて埋立地盤を作るのであれば、水質に与える影響も変わってくる可能性もあるので、こうしたことも踏まえていただくとよいと思った。

【事業者】 高潮防波堤については、中部地方整備局と協議を行い、埋立計画による高潮防波堤への影響は今のところないという結論を得ている。

名古屋港では、河川の流入土砂に伴う維持浚渫を行っているが、北浜ふ頭の前面においては、これまでも維持浚渫は行っていない。今後もないと想定している。

港内で発生した浚渫土砂を有効活用することを考えている。セメント改良を行うかなどについては、今後の検討となるが、基本的には浚渫土

砂をそのまま入れ、水抜き、自然乾燥などのある程度の期間をおく。埋立てが終わった後では、ある程度の改良、表土の上に良質土を入れるなど、いろいろな工法が考えられるが、改良した浚渫土砂で埋立てるところまでの検討には至っていない。

【大東会長】 浚渫土砂による埋立てでは、ポートアイランドがあるが、固化するまでにはかなり時間がかかる。こうした時間的なことも考慮していただけるとよいと思う。

【井上委員】 土砂は溜まっていけないということであるが、14ページの下の方を見ると、埋立予定地と陸地との間が閉鎖的な水域となって、この辺りに土砂が溜まったり、この辺りの水質が悪化したりするなどの影響があるように思われる。土砂が溜まる、溜まらないの検討は必要と考える。

次に、169ページに水質及び流況の調査地点が示されている。埋立予定地と陸地の間に流況と粒度組成は調査地点が設定されているが、その地点よりももう少し下の埋立予定地と陸地がつながっている付近は、最も水質などが悪化するおそれがあると思われるので、その地点での調査が必要であると思うがどうか。

【事業者】 流況の変化は、数値シミュレーションなどで確認していきたいと考えている。

水質の調査地点については、御意見を踏まえ検討していきたいと考えるが、この辺りは全体が広がった水域であり、埋立地の中央部及びその上の2地点で把握できるものとして設定している。

【大東会長】 部会で議論していただければと思う。

【大東会長】 89ページで、埋立予定地に接する開放水域が通っているが、ここは閉鎖して埋め立ててしまうのか、すでに埋め立てられているのか。

【事業者】 ここは海水路になっており、埋立てる際にも、水が抜けるよう水路をつないで阻害することがないようにする。

【大東会長】 埋立地によって出口が塞がった水溜まりのようになるイメージをもったが。

【事業者】 この水路は残して、上の方へ曲げてつなげるようなイメージになると思うが、詳細については、今後の工法の検討の中で考えていきたい。

【大東会長】 水の出入りがほとんどなくなる可能性もあるので、配慮をお願いしたい。

【二宮委員】 A案が確定で、環境配慮型護岸を検討するということか。数値シミュレーションなどの結果次第で、B案、あるいは別の案になる可能性はあるのか。

【事業者】 港湾計画に位置付けたA案について、環境影響評価を実施する。調査、予測及び評価を行う中で、必要があれば環境保全措置を検討することとなる。

- ・ 北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について審査させるため、大東会長の指名により、別紙3のとおり北浜ふ頭地先公有水面埋立部会を設置した。

(3) その他

- ・ 特になし。

別紙 1

平成25年5月16日

愛知県知事

大村秀章 殿

愛知県環境影響評価審査会

会長 大東 憲



西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書について（答申）

平成25年1月25日付け24環活第398-2号の諮問については、別添のとおりお答えします。

西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書に対する答申

はじめに

西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討し、その結果を環境影響評価書（以下「評価書」という。）に記載するとともに、事業の実施に当たっては、環境保全に万全を期する必要がある。

1 全般的事項

- （1）事業の実施に当たっては、準備書に記載されている環境保全措置を確実に実施することはもとより、環境保全対策に関する最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減に努めること。
- （2）環境への影響に関して新たな事実が判明した場合等においては、必要に応じ適切な措置を講ずること。
- （3）環境監視については、関係機関の意見を踏まえ具体的な監視計画を作成し、的確に実施すること。また、必要に応じ適切な措置を講ずること。

2 大気質、騒音、振動

- （1）工事関係車両の運行に伴う道路沿道への影響をより一層低減するため、海上輸送の活用や効率的な運行による車両台数の抑制及び平準化、低公害車の積極的な使用、伊勢湾岸自動車道の利用促進などの環境保全措置を徹底すること。
- （2）対象事業実施区域周辺で現状においても二酸化窒素濃度が比較的高い地域があることから、施設の稼働に当たっては、排煙脱硝装置等の適切な運転管理及び維持管理を徹底すること。

3 水質

- （1）陸域の掘削工事等による濁水の流出防止のため、仮設沈殿池の設置及び維持管理を適切に行うとともに、環境監視により水の濁りの状況を的確に把握し、必要に応じ適切な措置を講ずること。
- （2）海域での工事の実施に当たっては、濁りの影響を低減するために、汚濁防止膜

を適切に設置するとともに、環境監視により水の濁りの状況を的確に把握し、必要に応じ適切な措置を講ずること。

4 動物、植物、生態系

- (1) 工事の実施に当たっては、ハヤブサについて、知多市での現地調査において繁殖行動が確認されたことから、工事中の環境監視を実施すること。また、環境監視において、ハヤブサの繁殖行動が見られた場合は、専門家の指導・助言を得ながら適切に対応すること。
- (2) 緑地については、できる限り早期の回復が図られるよう緑地整備の具体的な工程を明らかにするとともに、必要に応じ専門家の指導・助言を得て、動物の生息環境に十分配慮した植栽や外来種の侵入防止等に努めること。
- (3) 施設の稼働に当たっては、冷却水の放水口において残留塩素が検出されないように海水電解装置の管理を徹底すること。

5 廃棄物等

工事中及び供用時に発生する廃棄物等については、発生を抑制することはもとより、再使用又は再生利用を徹底するとともに、再使用又は再生利用できないものについては、適正かつ迅速に処理すること。

6 温室効果ガス等

施設の稼働に伴い発生する二酸化炭素については、発電電力量当たりの排出量に加え、年間の総排出量を踏まえた評価を実施すること。

7 その他

- (1) 評価書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。
- (2) 事業の実施に当たっては、今後とも積極的な情報発信を行うとともに、住民等からの環境に関する要望などに適切に対応すること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
平成25年1月25日	審 査 会	知事からの諮問 準備書の内容の検討 部会の設置及び付託
平成25年2月28日	部 会	準備書の内容の検討 住民意見の概要の検討
平成25年4月19日	部 会	準備書の内容の検討 公聴会意見の検討
平成25年5月10日	部 会	準備書の内容の検討 関係市村長意見の検討 部会報告の検討
平成25年5月16日	審 査 会	準備書の内容の検討 住民意見の概要の検討 公聴会意見の検討 関係市村長意見の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

	生田 京子	名城大学理工学部准教授
	井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	酒巻 史郎	名城大学理工学部教授
◎	大東 憲二	大同大学情報学部教授
	武田 美恵	愛知工業大学工学部講師
	田代 むつみ	名古屋大学大学院工学研究科助教
	田中 稲子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
	谷村 篤	情報・システム研究機構国立極地研究所教授
	谷脇 弘茂	藤田保健衛生大学医学部講師
	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学環境・生命工学系講師
	富田 寿代	鈴鹿国際大学国際人間科学部教授
	中川 弥智子	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
	那須 民江	中部大学生命健康科学部客員教授
	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	成瀬 一郎	名古屋大学エコトピア科学研究所教授
	西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
	二宮 善彦	中部大学工学部教授
	長谷川 明子	公益財団法人日本生態系協会評議員
	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部准教授
	廣畠 康裕	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	増田 理子	名古屋工業大学大学院工学研究科准教授
○	松尾 直規	中部大学工学部教授
	光田 恵	大同大学情報学部教授
	柳澤 紀夫	公益財団法人日本鳥類保護連盟理事
	山澤 弘実	名古屋大学大学院工学研究科教授
	山田 佳廣	三重大学大学院生物資源学研究科教授
	吉久 光一	名城大学理工学部教授
	吉村 いづみ	名古屋文化短期大学教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)

別紙2

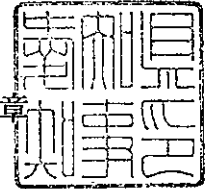
25環活第7-1号

平成25年5月16日

愛知県環境影響評価審査会

会長 大東憲二様

愛知県知事 大村秀章



北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について
(諮問)

このことについて、愛知県環境影響評価条例（平成10年愛知県条例第47号）
第33条において準用する同条例第10条第4項の規定に基づき、貴審査会の環境
の保全の見地からの意見を求めます。

担 当 環境部環境活動推進課
環境影響評価グループ
電 話 052-954-6211 (ダイヤル)

愛知県環境影響評価審査会 北浜ふ頭地先公有水面埋立部会構成員

委 員 名	所 属 等
いくた きょうこ 生田 京子	名城大学理工学部准教授
いのうえ たかのぶ 井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
さかまき ふみお 酒巻 史郎	名城大学理工学部教授
たなか いねこ 田中 稲子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
たにむら あつし 谷村 篤	情報・システム研究機構国立極地研究所教授
とみた ひさよ 富田 寿代	鈴鹿国際大学国際人間科学部教授
なす たみえ 那須 民江	中部大学生命健康科学部客員教授
にしだ さちこ 西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
はやま よしかず 葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部准教授
やまだ よしひろ 山田 佳廣	三重大学大学院生物資源学研究科教授

(敬称略、五十音順)